

帝塚山派文学学会 会報 第10号

発行日：2019年4月8日

事務局：〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山学中3-10-51 帝塚山学院内

実務事務局：電話 080-1460-6616 / Mail: telite2016@maia.eonet.ne.jp

帝塚山派文学学会 第5回総会 開催のご案内

第5回総会を下記の通り開催します。なお総会の前に記念講演を行います。

記

日時：6月30日（日）13:30～16:00

会場：帝塚山学院本部棟 同窓会ホール（南海高野線帝塚山駅下車すぐ）

1. 記念講演：ジャーナリストから見た「帝塚山派」の作家たち―「浪花女を読み直す」を取材する中での帝塚山派作家の位置とは―（仮題）

講師：産経新聞大阪本社編集局編集委員石野伸子さん

2. 第5回総会：平成30年度会計報告・令和元年度活動方針

（本会報をもって、会員各位への第5回総会招集状とします。）

当面の行事予定

文学講座第6クール 「住吉大社と和歌・連歌」

第1回 4月13日（土）13:30 / 講師：小出英詞（運営委員）

第2回 5月18日（土）13:30 / 講師：鶴崎裕雄（運営委員）

第3回 6月22日（土）13:30 / 講師：小出英詞（運営委員）

場所：第1回及び第2回は「あべのボランティア活動センター」

第3回は「住吉大社」

2019年度 個人会員会費納入のお願い

- 個人会員会費は年額3,000円です。払い込み方法は以下の通りです。

1. 「ゆうちょ銀行」に口座をお持ちの方は、通帳引落としによる会費納入が可能です。この場合、振込手数料はかかりません。

記号：14090 番号：44663301 名称：帝塚山派文学学会

2. 他の金融機関から当学会の「ゆうちょ銀行」口座に会費を振り込むことができます。この場合、振込手数料が必要です。

店名：四〇八（ヨンゼロハチ） 店番：408

預金種目：普通預金 口座番号：4466330 名称：帝塚山派文学学会

- 問合せ先：080-1460-6616（事務局担当：榊野隆平）

会費納入は4月末日までに済ませていただきますようお願いいたします。

なお、既に本年度会費を振り込まれた方には本欄を借りて御礼申し上げます。

『紀要第三号』発刊

本年3月31日付にて『紀要第三号』を発刊しました。会員の皆さまには既に各1部を郵送しております。今回の紀要は掲載論文の分量が各論文とも多く、前2号までの体裁で作成すると書籍が大幅に厚くなり、これまで郵送に利用しております「スマートレター」の限度を超えてしまいますため、やむなく活字の大きさを小さくし一頁の行数を増やすことで、紀要第二号とほぼ同等の体裁に仕上げました。こうした事情で前2号に比べてやや読みにくくなってはおりますがなにとぞご海容下さい。

なお、次回の紀要からは掲載論文の文量や記述方法などに基準を設け、前2号同様のスタイルで読みやすい書籍にしたいと考えております。

第9回研究会報告

2019年3月10日(日)午後、帝塚山学院同窓会ホールにおいて第9回研究会が会員18名の参加のもとで開催されました。

第一の発表は本会会員の吉住公男さん(現在フリーランスでラジオ番組を企画制作に従事)による「ABC こどもの歌～『音楽のわかる詩人』が製作した、新しいこどものうた」でした。吉住さんはCD『ABC ホームソング大全』や、昨年日本民間放送連盟賞ラジオ教養番組部門・最優秀賞を受賞したラジオ番組「ラジオと童謡と～『サッチャー』の阪田寛夫が残したものを」を監修されています。1955年9月6日に放送開始され、番組名も内容も変更される1962年までに放送された約150曲のこどもの歌の中から印象に残る曲を解説し、当時の音源を流す形で進められました。作詞：サトウハチロー、佐藤義美、まど・みちお、石濱恒夫など、作曲：中田喜直、大中恩、冨田勲、大野正雄など、後の阪田寛夫の小説やエッセイに登場する優れた芸術家との交流がこうして始まったのです。

阪田寛夫の孫弟子として「ABC こどもの歌」の発掘・調査を続けておられる吉住さんならではの楽しい発表でした。

第二の発表は本会会員藤田富美恵さんによる「秋田實」でした。藤田さんは漫才作家・秋田實のご長女で、秋田實の追想記「父の背中」で第8回潮賞ノンフィクション部門受賞、近著に『秋田實 笑いの変遷』があります。発表要旨は、2013年に実家の建て替えで、父が残した資料を全て家に持ち帰り、整理し始めて初めて父の仕事の全貌が分るようになった。漫才関係の資料、歴史、評伝、LPレコード、落語、落ちの研究、ラジオドラマ、舞台の台本などたくさんあった。今宮高校時代から買っていた外国語のユーモア雑誌は数百冊あり、その全てに目を通して切り抜きをしていた。漫才以外の資料も多く、例えば雑誌の編集が好きで、「戦旗」、月刊雑誌「ヨシモト」、「大阪パック」、「大都会」などを編集した。また、父は若い頃から学校の先生になりたいと思っていたが、その夢が叶って1971年に大阪芸術大学の教授になった時は、講義ノートをクラス別に分けて作るほど熱心にやっていた。今宮高校時代に知り合った藤沢恒夫、長沖一との友情は生涯続いた。藤沢恒夫を小説家として尊敬し、自分も小説家になりたかったようで、何作か短編を書いている。

秋田實の人と仕事がよく理解できるご家族ならではの貴重な発表でした。

文学講座「語り」芸能と漫才の誕生 開催報告

本学会文学講座の第5クール「語り」芸能と漫才の誕生が、ますの隆平運営委員の講義と案内によって以下の通りに開催されました。

第1回「語り芸能あれこれ」 2018年11月17日、於 あべのボランティア活動センター (26人)

第2回「語り芸能と漫才の誕生」 2019年1月19日、於 あべのボランティア活動センター (12人)

第3回「道頓堀・千日前まち歩きと藤澤家墓所案内」 2019年3月16日 なんば・齡延寺 (14人)

声明の「講式」から始まる日本の「語り」芸能を、「瞽女唄」「説経節」「祭文」などの口承文芸と、予祝芸能・門付芸能としての萬歳を中心に(第1回)、秋田實が産みの親となって育てた近代漫才へと移っていく推移(第2回)を、数多くの実例(音声と動画及び実演)を元に紹介しました。

本年7月以降の行事予定

2019年9月29日 第10回研究会 発表I「長沖一関連」(永岡正巳)
(13:30より) 発表II「伊東静雄関連」(下定雅弘)

2019年11月16日 文学講座第7クール 第1回「阪田寛夫の宝塚-1」(河崎良二)

2019年12月15日 第11回運営委員会(11時より)
第11回研究会 発表I「庄野潤三関連」(西尾宣明)
(13:30より) 発表II「庄野潤三関連」(村手元樹)

2020年1月18日 文学講座第7クール 第2回「阪田寛夫の宝塚-2」(河崎良二)

2020年2月15日 文学講座第7クール 第3回「阪田寛夫の宝塚-3」(河崎良二)

2020年3月8日 第12回研究会 発表I「庄野英二関連」(伊藤かおり)
(13:30より) 発表II「『南海鉄道旅客案内』と宇田川文海」(菅原真弓)

本年度は元号が複数(平成、令和)となるため、本会報の年号は西暦で表示しております。